

2024年10月5日

岡部昌平

第357回山口西田読書会のプロトコル（2024年9月14日開催／同10月2日配付）

【テキスト】

第十四巻「第五講 新カント学派」55頁4行目「マールブルグ学派はコーエンを頭目として」から最後までを读了。

【キーセンテンス】

思惟するといふのは働くことである。働くことはそれ自らに自己の内容を創造することである。生産する働きが同時に生産せられた成果である（58頁11行目）

思惟は単なる論理的な要求でなくして、その中に内容をも包含した純粋経験のごときものでなければならぬ。（59頁3行目）

【問い】

生まれてからずっと目の前の石ころを見ている人がいるとしたら、その人は生まれた甲斐がないのだろうか。

補足説明：そうさせるのは論理的な要求か、その本質たる純粋なものか。純粋思惟（純粋経験）に生きることに意味や価値はあるか。ないとすれば何があるのか。